

葉梨農林水産副大臣現地調査概要

(1月24日：秋田県横手市十文字町 ほうれんそう等団地)



【被災状況】

- ほうれんそうパイプハウスは、ビニールを剥がしたものの、年末年始の集中的な大雪や暴風雪により、42棟のうち37棟が倒壊。
- 10年前の豪雪ではパイプハウスの被害はなかったが、今回は大きな被害を受けた。このような被害は初めてのこと。



【主なご意見】

- 4月から息子が新規就農することもあり、再建したいが自力では大変。被災パイプハウスの撤去と再建のための支援をお願いしたい。
- 過去の災害では、パイプハウスの資材が不足して高騰した。資材不足にならないように対応して欲しい。
- 耐候性ハウスへの建替等の改良復旧も認めて欲しい。
- 今までに経験したことがない大きな被害。元々営農継続の課題がある中で、今回の被害が引き金となり、離農する農家も出てくるのではないか。農家の励みになるように、支援策を早く示して欲しい。

葉梨農林水産副大臣現地調査概要

(1月24日:秋田県横手市 秋田ふるさと農業協同組合選果場)



【現地概要】

- リンゴやブドウなど果樹の枝折れ等の大きな被害が発生。今後、更なる降雪や融雪による沈降によって被害の拡大が懸念。
- 10年前の雪害と比べて、雪が短期間にまとまって降り、気温が低く雪が凍ったために被害が大きくなった。



【主なご意見】

- この大雪は、自宅の除雪、自らの身を守る等の自衛の対応で精一杯。樹園地の除雪は人手が必要。その経費や融雪にも支援が必要。
- 果樹は植え替えてから5年収入がなく、未収益期間の草刈りや防除の作業に必要な経費に支援をして欲しい。
- 育苗ハウスに被害が出たため、苗の供給が心配。J Aが苗を集めることになっているが、量は多く、必要な銘柄を集める必要。

秋田県における意見交換会概要

(1月24日：秋田県横手市条里北庁舎)



【主なご意見】

- これまでに経験のない集中的な降雪。気温が低く雪が凍ったため被害が拡大。
- 過去の豪雪被害を乗り越えて、産地形成、複合経営、輸出に取り組んできたところにこの被害で、農家は精神的なダメージが大きい。
- 今回も大雪の対策や備えにも取り組んできたが多大な被害が発生。
- 再度災害に備えて、強靱化を含めた改良復旧を支援して欲しい。
- 果樹被害に伴い、複数年にわたる未収益期間への支援が必要。
- 果樹、花卉は担い手主体であるが、育苗ハウスは兼業、高齢農家も多い。災害という観点から、担い手以外も同様に支援してほしい。
- これから稼働しようとしていた完成直後のメガ団地ハウスも全壊。これをどう復旧していくか、国と協議しながら進めて行きたい。
- 国営事業所が、工事を止めて除雪を優先したことに感謝。

【副大臣ご発言】

- 昨日、新潟出張した大臣は、支援策を速やかに検討するように指示。
- 今後も雪が降る可能性はあるが、早く具体的な支援策を示すことが、営農を継続する大きな支えになるため、支援策の検討作業を急ぎたい。
- 分かりやすく生産者に語りかけることが大切。コロナ禍で説明会もできず、雪害も進行中のため、支援のメニューを示して安心していただくことも含めて、コミュニケーションのやり方を考える必要。